
小さな運命共同体

哀 l o v e コナン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな運命共同体

【Zコード】

Z4767Z

【作者名】

哀10vēコナン

【あらすじ】

短編集として書きたかったんですが、あまりにも長くなり過ぎて
…連載にしました

予定していたものプラス少し加えて、『哀小説を今度は連載して行
きます。

医療全く無視をした『哀』です。ネタバレになるので、どちらかで言
つておきます。どちらかの死ネタになりますので、ご注意して読ん
でください。

前作見ていただいた方はわかると思いますが、またあの優しい先生
が出てきます。

「哀を好きな人にとっては怒られるかもしれないですが、嫌な人は
ここでスルーしてください。」

そして、今回は一話一話が短いと思います…前作と比べると…それ
と、あくまで「哀なので、新一や新一の両親などの登場はありません
…」…服部も（今の段階では）出でこないと思います。

それを含め、大丈夫な方のみ… 閲覧お願いします。

▼01・1 プロローグ～運命…それは…変えたいもの

運命…それは、一人一人が神様によつて授けられたもの…。

運命…それは、自分自身でどうにでも変える事が出来るもの…。

きつと、これもまた…”運命”なのかもしれない…。

”工藤君…私は貴方に…何もしてあげられないのよ…。”

”お前は生きてくれてるじゃねーか…それだけで充分だよ…”

その言葉を交わした君と僕との間には…何があつたんだろう?…その言葉…ちゃんと君に伝わったのかな…いつだつて、励ましていたはずだったのに…。

でもこれが…君と僕の…最後の物語になつてしまつたんだね…。

君の運命を僕は変える事が出来たのかな…本当に君は…それで幸せになれたのかな…。

でも、君にあんな運命背負わせたくないなかつたんだ…だから、君の運命を…僕が変えてあげたかつたんだ…。

だから、お願い…僕がした事、許して欲しいんだ…。

そして…生きる事を諦めないで…お願いだから…なあ、灰原…!!

▼01・1 プロローグ～運命…それは…変えたいもの（後書き）

始まりました。

プロローグなので今日は短いです…。

読んでもらって嬉しいです。

今回は不定期になりますが、よろしくお願ひします。

時間があれば、それほどあかず、投稿できるとおもいます。

また、今回もヒントを残して、
次に進みたいと思います。

次回ヒント
準備したい事

次回、またよろしくお願いします。

ある平日の朝…。

とある病院に来ていたコナンは、診察室で…蘭と小五郎が見守る中…医師によつて、胸に聴診器を当てられていた…。

「うん…大丈夫だね。順調、順調…」

コナンの胸に当てられた聴診器を離しながら、今度はコナンの頭に手を当てて微笑む先生の名は坂井医師…。

コナンが最も慕つている…コナンの主治医でもあつた…。

「コナン君、こないだの話なんだけど…そろそろ、準備したいんだ…返事聞かせてもらえるかい?」

「まだ、大丈夫だよ…」

そう話すコナンは何となく、淋しそうな表情を浮かべて俯いていた…。その様子に見兼ねた坂井医師は、コナンに言つた。

「…ねえ、コナン君…先生、ちょっと毛利さんと蘭さんに話がした
いから…コナン君は先に戻つていってもらえるかい?」

「僕だけ…内緒の話?」

不安な面持ちで坂井医師の顔を覗き込むコナンを見た坂井医師は、
にっこり笑いながら…コナンの頭を撫でながら言つた…。

「違うよ…コナン君が納得してもらえるように…相談しなきゃだか

ら…それに、早くしないと取り返しのつかない事になっちゃうから

ね…

「…うん」

突きつけられた自分の現実に、コナンは納得したくなくても、頷くしかなかつた…。

そんなコナンを見た蘭はコナンの顔を覗き込んで、諭すかの様に話出した…。

「コナン君、大丈夫よ…すぐ行くから、病室でちやんと待つて…」

そう言われたコナンが診察室を後にした後、坂井医師は小五郎と蘭に話を始めた…。

「先日もお話ししましたが…コナン君の手術の準備をそろそろ取り掛かりたいと思うんですが…」

そう話す坂井医師だったが、コナンの事を思つあまり…自然と目が泳いでいた…。

「手術自体は、そう難しくないんですが…コナン君が手術を拒んでる今の状況では、こちちらとしても手術を行えないんです…ですから、毛利さん達から説得してもらえませんか?」

コナンに病気の事や手術の事を話してから、コナンがずっと手術を拒み続けている事を坂井医師は心配していた…。

でももう、時間が限られている…そんなコナンの手術に、坂井医師は少しばかりの焦りを感じていた…。

「でも、先生…私達が言つても…コナン君、分かつてくれないと思うんです……だから、先生から話してもらえるといいんですけど…？」

蘭は「ナンの性格を分かつっていた…蘭達が手術の事を話しても”大丈夫”と言つて、聞く耳を持たないかも知れないから…。

だから、先生からもう一度言われた方が分かつてくれると、確信していた…。

▼01・2 診察結果（後書き）

今晚わWW

今日は変な時間に投稿ですWW
一応、ストックが溜まって来たので
しばらくは毎日投稿になるとおもいますWW

次回ヒント
哀ピンチ

次回もお楽しみに

▼01・3 いなくなつた小さな探偵と表に迫る悪魔（前書き）

今回、コナンは出て来ませんww
明日までお待ちください（。。。一一一）

▼01・3 いなくなつた小さな探偵と哀に迫る悪魔

「分かりました…」

蘭の頼みを聞き入れた、坂井医師はコナンにもつ一度…手術の事を受け入れてもらえるように…蘭と小五郎を連れ、コナンが戻つたであらう病室に足を運んだ…。

コナンの病室の扉を開ける坂井医師は、目を見開いた…。

「あれ? コナン君?」

病室に戻るよつに面つたはずのコナンの姿がどうにもなかつた…。

そればかりか、置いてあつたはずのランドセルが、見当たらない事に気付いて…坂井医師はため息を一つした…。

「あのガキ…どこ行きやがつた…! 蘭、お前はこゝにいろつ…」

そう言つて、コナンを連れ戻しに行こうとする小五郎を坂井医師は止めた…。

「まあまあ、毛利さん…今すぐどうこういう問題ではありませんから…とりあえず、様子を見て見ましょつ…コナン君ならきっと大丈夫ですから、帰つてくるのを待ちましょつ? それに…」

そつとひいて、腹を立ててる小五郎を落ち着かせた…そして、ひと呼吸置くと、再度口を開いて言つた…。

「行き先は…分かつてますから…」

一方、阿笠邸では…自分自身に降りかかる悪魔が徐々に詰め寄つて
る事に気づかず、哀はいつもの朝を過ごしていた…。

「博士…「一ヒー、」」」置ことくわよ…」

「ああ、すまんな哀君…」

そつ言ひと、哀の差し出した「一ヒー」に手を伸ばし、それを口にするのを見た哀は…つと笑い、嫌みをいいながら玄関へと歩き出した…。

「じゃ、私は学校に行つてくるわ…博士…私がいないからと言つて、
高力口リーな物食べ過ぎないようにね…」

「分かつとるわい…」

そういうながらも、残念そうな顔をする博士の顔を振り返つて見た
次の瞬間…哀は胸を抑えしゃがみこんでしまつた…。

驚いた博士は哀に近づき、心配な面持ちで声をかけた…。

「哀君…どうしたんじや？」

「何でも…ハア…ないわ…ハア…いつもの事よ…ハア…すぐ治まる
わ…」

「いつも?」

驚いた博士は、哀の発言に耳を疑つた…。

「最近、良く…ハア…あるのよ…でも、大丈夫よ…ハアハア…心配…ないわ…」

苦しみながら、心配する博士を気遣う哀…暫くすると、本当に苦しさは治まった様子で…強張らせていた顔も正常に戻っていた。

それに安心していた哀はゆっくり立つと、”ね？”といった感じで笑つて見せた…。

そんな哀の様子に不安になり、哀に病院へ行く様に勧めた…。

「平氣よ…それより、博士…工藤君から何か聞いてない？」

「新一？何をじや？」

「2日も学校休んでるのよ…まあ、博士が聞いてないなら問題ないと思つけど…じゃ、行つてきまーす…」

博士の心配をよそに、哀はなにもなかつたかの様に平氣な顔をして学校に向かつた…。

閉まる扉を目にして、哀やコナンの事が心配になつた博士は…暫くその扉の前で一人、佇んでいた…。

▼01・3 いなくなつた小さな探偵と袁に迫る悪魔（後書き）

次回ヒント

噂の人物

今晚わwww

今年も残り3日になりましたね

今日はスペシャルばかりで、何をみよつか迷つてしまひます（。
。 一一一）

始まつてまだ間もないこの小説なんですが、死ねたというのを了承して読んでいただき&お気に入り登録や感想いただき、ありがとうございます。

励みになります。

では、また明日の投稿をお待ちください

▼01・4 勝をすれば…登場

哀が教室の扉を開け、入ろうとした時…歩美、元太、光彦は哀の姿に一目散に駆け寄った…。

「哀ちゃん…おはよー」

「灰原さん、おはようございます…」

話があると言わんばかりに、哀の顔をじっと見つめる三人に…哀は不思議に思いながら、平静を装つて聞いてみた…。

「おはよ……どうしたの? そんな顔して…」

「哀ちゃん…またコナン君お休みだつて…」

「えつ? ? ? そり…」

言いたい事は分かつていた哀だったが、休みと聞いて…少しばかり心配が募つていた…。

「昨日、俺ら探偵事務所に行つたんだ…でもよ、家んなか真っ暗で…誰も居なかつたんだよ…」

「何かあつたんでしようか?」

「コナンの事が心配で堪らない少年探偵団…コナンが居るはずの探偵事務所に行つても誰もいないなんて事…今まで会つたんだろうか?」

そんな光景を目の当たりにした三人が、不安がらないはずもなかつた…。

哀はそれでも、心配させない様にと諭しながら話始めた…。

「何言つてゐるのよ…彼なら大丈夫よ、ただの風邪でしょ？病院にでもいってたんぢゃない？」

「でも…」

「だいたい、何かあつたなら私達に言つて来るでしょ？そういう人でしょ？江戸川君は…」

そういうて、三人を凝視した…。そんな哀を見て三人は泣く泣く頷くしかなかつた。

「はーい、みんなー、席に着いてーー出席を取るまえに報告です。今日もコナン君は風邪でお休みだそうです…でも、心配しないでね、ただの風邪みたいだから…」

小林先生は、教室に入つて来るなり、教室にいる生徒達に報告した…。その言葉に、三人は騒ぎだし、後ろの席にいた元太が光彦に声をかけて來た。

「なあー、今日も帰り寄つてみよーぜ？」

「そうですね…」

「階で行こーー！」

三人がそんな言葉を交わしている時…教室の扉が開いた…。

「おはよひゞやこます…」

顔を出したのは、噂をすればの「コナン」だつた…。

「コナン君ーー！」

コナンの休む連絡を受けた直後の出来事だったので、さすがに皆驚いていた…。

小林先生がコナンに近寄り、自分の額とコナンの額を触り、見比べていた…。

「熱はないみたいだから、大丈夫そうだけど…」

「大丈夫だよ…もう治っちゃったから…」

「でも、無理しちゃダメよ?」

「うん、分かった!…」

そつ言葉を交わすと、コナンを席に着かせた…。

席に着いたコナンは哀に”よつ”と、挨拶すると、哀は無駄な心配させられた事に不機嫌になり…瞳だけコナンの方に向かせると言った。

「余計な心配させてんじゃないわよ…」

「なんだお前、心配してくれてたのか…」

「私じゃないわ…あの子達によ…朝から大変だつたんだから…」

「…」

哀にそう言われたコナンは、ゆっくり三人の方へ視線を移すと、三人は心配な面持ちでコナンの方を見ていた…。

VOL.4 槩をすれば...登場 (後書き)

こんにちは

とうとう残り2日を切りましたね。W

来年はどんな一年にしようか考えさせられる

今日はもう一話、夜に投稿予定です。

では、また夜に会いましょう* * * * * - * : * . * . * . * . * . * . * . * .

次回ヒント 倒れる

▽01・5 病魔の発覚

「コナン君ーん、哀ちゃんーん！！」

「帰りましょーーー！」

「行こーぜーー！」

授業が、終わり…帰る支度をしているコナンと哀に向かつて言葉が投げかけられた…。

「おうーーー帰ろーぜ、灰原…」

「ええ…」

そう言つてランドセルを背負つと、五人揃つて…久々の下校を共にしていた…。

そして……これが最後の五人揃つての下校になるなんて、この時は知る術もなかつた…。

「大丈夫ですか？」「ナン君…」

「ああ、平気だよ…悪かつたな…心配かけちまつて…」

「いえ…では、僕達こっちですか…」

そう言う光彦を先頭に、曲がり道に差し掛かった三人は一人に手を降り叫んでいた…。

「また明日会いましょう…」

「哀ちゃん、またね～」

「じゃーなー、コナン……無理すんなよーーー！」

そう言つ三人に、コナンは大きく手を降り……哀は顔だけ向いて微笑んでいた……。

「わーつてゐよ、じゃーなー」

一人だけになつて……哀は漸く本題を切り出す事が出来た。

「ねえ、今朝何で遅刻して來たの？」

「ああ、ちよつと寝坊しちやつて……」

分かりやすい嘘をつくコナンにジト田で見る哀は……田線を戻すと言つた……。

「遅刻……それで私が納得すると思つてゐるの？」

「まあ、いいじゃねーか……あつ、じゃーな……」

「ちよつと……」

丁度曲がり道に差し掛かり、哀の言葉を無視して……コナンは探偵事務所の方へ歩いて行つた……。

呆れながら、哀もまた帰り道を歩いている時……胸の痛みを感じた哀は、ドサッと音を立てて……その場に倒れこんでしまつた。

それを感じたコナンは急いで哀の元へ駆けつけた……。

「おい、灰原……どうした？」

「つ、つ……痛い……胸が苦しい……痛い……」

「ナンは心配な面持ちで、駆け寄り哀に声をかけるが、哀は更に胸を押さえて苦しみ出した…。

「おー、灰原…しつかりしN…」

「つづ…」

「灰原！？灰原あああーーーーー！」

「ナンの叫び声が響き渡る中、哀はただただ、痛みに耐えていた…。

▽01・5 病魔の発覚（後書き）

次回ヒント
治療中

こんばんわ、実は、この中に出てくる坂井先生はZARDから取りましたww

14年位、ファンなのです（^ー^）ノ

では、今日はとっても寒いから、みなさん風邪に気をつけくださいね。(^ー^)。

▼01・6 心配になるコナン

哀が倒れたのを田にしたコナンは急いで自分の携帯で救急車と、阿笠博士に連絡した。

直ぐに救急車が到着して…コナンも一緒に付き添っていた…。

救急隊員による処置を施されながら、コナンは哀の顔だけを見続けていた…。

病院に着き…ストレッチャーに乗せられ、治療室に運ばれる哀を追いかけながら、賢明に声をかけるコナン…。

「灰原…」

身長が足らず、哀の顔を見る事ができないコナンだったけど…哀の苦しむ声だけは耳に届いていた…。

「坊や、ちゅうとこいで待つてね…」

治療室の前まで来ると、看護婦さんが「コナンに声をかけた…その声に一つ頷くと、治療室に運ばれる哀の乗ったストレッチャーをずっと眺めていた…。

「コナン君…ダメじゃないか、走つたりしちゃ…」

その声に振り向くと…坂井医師が何時の間にかコナンの後ろに立つ

ていた……。

「先生……」

「先生の勘違いだったみたいだね……コナン君が倒れて……自分で救急車呼んだのかと思って……毛利さんに連絡しちゃったよ……」

コナンの目線まではしゃがむ坂井医師はコナンの顔を覗き込むと言つた……そんな坂井医師の顔を一度見ると……再びコナンの目線は治療室へ向いた……。

「君の、友達かい？」

そう言われ、一度俯いたコナンだったが……もう一度坂井医師の顔を見ると言つた……。

「先生……灰原……大丈夫……だよね？」

「まだ、治療中だからね……担当の先生が出て来ないと分からないな

……」

「そう……」

コナンの頭に手を置きながらついでに坂井医師の言葉を聞いたコナンは寂しそうに俯いた……。

「ひひ、コナン……！」

その時、連絡を受け蘭を連れてやつて来た小五郎に、コナンは鉄拳制裁を下された……。

「痛いよ、おじさん……」

「あつたりめーだーだー誰が学校行けつて言つたんだーー病室に戻れ

つて言つただるー「がー！」

「お父さんーーいいじゃない、ちやんと戻つて来たんだから…」

その光景に見兼ねて、坂井医師は「ナンの手を握ると言つた…。

「まあまあ、とりあえず一度診察室へ行きましょー。もう分かつた
よね？」「ナン君…？？」

「うん…」

坂井医師の言葉に頷くと、「ナンは頭を摩りながら…診察室へ連れ
ていかれた…。

▼01・6 心配になる「ナン」（後書き）

こんばんわ　。ー、ー、ー、ー。

今年最後の投稿となりました

今年も残すところ www

3時間切りましたねへ(^ ^ ^) (ノ^ ^)ノ
ガキ使見てる人、紅白見てる人…それですが…皆さん気が持ち
のいい新年になるといいですねー、ー、ー、

また、来年会いましょう(*、ノ・。・* + *・。・。/
皆さん、よいお年を♪(^ ^ ♪)(♪ ^) ♪ ” ”

では、今年最後のヒントにいきたいと思います

次回ヒント

約束

ですwww

新年初投稿をお楽しみに??

▼01・7 僕の約束聞いてくれない??

「コナン君、息吸つて…はい、吐いて…」

コナンは服をめぐり、聴診器を胸に当たられながら…坂井医師の命令にゅうじと呼吸をしていた…。

「先生…」

診察が終わつたのを見るとコナンは静かに声をかけた…。

「灰原…」

「まだ詳しい事は分からぬけど、やつきの様子だと、心臓かな…」

そう聞いて、俯くコナンを見ながらコナンの頭に手を置く坂井医師は静かに忠告した…。

「そりそろ、君も自分の事考えなきゃな…」

「…………うん…」

そつぱつと、コナンは坂井医師を見ると勢い良く言つた…。

「ねえ、先生!! 灰原の担当のお医者さん、先生がなつて…お願い!!」

「えつ? どうしてだい?」

「先生だったら、信用出来るから…」

そつ言い、俯くコナンを見ながら困った様に言つた…。

「でもね、担当の先生は治療した先生がなる事に決まつてゐからね……」

「お願い……」

そんなコナンは見兼ねた小五郎が口を挟んで来た。

「先生を困らせんじゃねーんだよ……」

「だつて——」

「わかつた！ 担当の先生に頼んでみるよ……で、その先生が承諾してくれたら……でもいいかな？」

「ありがとう、先生！！」

その言葉に、明るい表情を見せ元気よく返事をするコナンを見る坂井医師は、その先生が了承したらとこつ条件で引き受けた事にした。

……

治療を終えた哀が乗せられたストレッチャーを見送った後、担当の先生に駆け寄る坂井医師は暫く話した後、コナンの元へ戻つて来た

……

「コナン君、今先生と引き継ぎしたからね……君の友達も先生が見る事になつたよ……」

「よかつた……それで、灰原は？」

喜びと同時に、哀の状態を聞くコナンに坂井医師は説明した。

「心臓に、爆発を抱えてるんだつて……だからね、その心臓が弱くなる前に丈夫な心臓と交換しなきゃならないんだ……」

「灰原死んじやうの？」

「ドナーが見つかれば大丈夫だよ…」

そういうながら笑顔を見せる坂井医師に、コナンは言った…。

「ねえ、先生…僕、ちゃんと自分の事考えるから…約束聞いてくれない？」

「…」

坂井医師は「ナンの口から出た言葉に耳を疑つた…。

「それは、君が考える事じゃないよ…「ナン君…」

▼01・7 僕の約束聞いてくれない??（後書き）

皆さん、あけましておめでとう
ございます（＝、、、）人（、、、＝）
今年も引き続き、小説サイトにて、
更新に励みたいと思いますので
よろしくお願いします（＊＾＾＊）

では、新年初の更新です www
読んでいるとわかると思いますが、
だんだんと、コナンが何を決めようと
しているかが、わかつてくるとおもいます。

次回ヒント
涙

明日もお楽しみに www

皆さんにとつて今年一年が素敵な
年になります様に

▼ 01・8 誰にも止められない涙

「阿笠さんですか?」「
はい、それで哀君は?」
「いらっしゃ……どうぞ」

コナンの連絡で漸く駆けつけた博士は先生の案内の元、病室に向かつた。

「博士……」
「哀君……やっぱり、今朝病院行つた方が良かつたんじゃ……」
「仕方ないじやない!—!」こんな事になるなんて思わなかつたんだか
ら……」

その会話に不思議に思つたコナンはベッドに近づき声をついた。

「今朝つて……何かあつたのか?」
「別に……たいした事じやないわ……」
「教えろよ!」
「何でもないつて言つてるじやない!—!」

それ以上聞いても無駄な事を察知したコナンはそれ以上何も言わなかつた。

「灰原哀さんだね……これから君の治療に携わる事になつた坂井と言
います……宜しくね!」

「……」

坂井医師の挨拶に哀は何も言わず、不機嫌なまま凝視していた……。

「先程の治療でね…君の心臓が原因だと分かったんだ…まずはドナー登録をして、君の心臓に一致するドナーが現れるまで入院して待とう?先生も一緒に頑張るから…」

「ドナーが現れなかつたら?私は死ぬしかないのよね?」

坂井医師の言葉に、涙目になる哀は興奮して叫び出した。

「知ってるわよ、ドナーの事!!一致する心臓なんて、一握りだそうじゃない!何年待つてもドナーが現れないで死んで行く人だつているのよ!」

「灰原さん!」

「いいのよ…もう…私は死ぬのを待つしかないんだから…」

哀は両手で顔を覆い、酷く落ち込み泣き出した…。

それを聞いていたコナンは博士の名前を震える声で呼んだ…。

「博士…」

「大丈夫じゃ、見つかる…きっと…」

その後何度も坂井医師は励ますが、哀は一向に顔をあげてはくれなかつた…。

「とりあえず、ドナー登録の申請をしよう…もしかしたら、現れるかもしれないからね…阿笠さん、手続きをお願いします…」

「はい…」

博士は坂井医師に連れられて病室を出て行つた…。

残つたコナンは哀のそばに近寄つた。

「灰原…大丈夫か？？」

「ええ…今の所は生きてるんじゃない？」

まるで他人事のようにいつ灰原をコナンは元氣付けようとしていた…。

「大丈夫だよ、灰原…ドナー申請したんだし、きっと見つかるや…」「見つからなければ私は死に落ちるのよ…いい気味よね、本当…」「やめろよ、そういう言い方…お前らしくねーぞ…！」

自分のことを卑下する哀にコナンは賢明に励ますが…哀の心には届きそうもなかつた…。

「出でつてくれない…」

「灰原…」

「出でつてよつ…私の気持ちなんて貴方なんかに分かりっこないのよ…うつ…」

そうコナンに叫んだ後、哀は再び両手で顔を覆つて泣き出した…言葉を失つたコナンはただただ、哀を見つめるしかなかつた…。

「また…来るから…」

そう言って、返事をしてくれない灰原を一人病室に残してコナンは静かに出て行つた…。

病室の扉を閉め、寄りかかるコナンは俯いて拳を握りしめた…。

助けたくても助けられない自分の不甲斐なさを悔やみながら…。

▼01・8 誰にも止められない涙（後書き）

「んばんわ www

正月休みで、ダラダラしている

今日この頃です www

小説を毎日書いていると、突然
書きたい内容は頭の中にあるのに
言葉が出てこないって言う事が
あります www

そういう時って休んだ方がいいんだな
って後回しするのが一番ですね www
正月ボケが祟ってるのかもしれません www

ではでは、余談はこれ位にして www

次回ヒント

帰ろつ

次回もまた

よろしくお願ひします。

p . s

始まつてまだ間も無いこの小説に www
お気に入りや感想、ポイントいただいて
ありがとうございます。

それを励みに頑張つて行きたいと思います。
よろしくお願ひします^_^(^o^)^_

▼01・9 言わなきやいけない、最後のお願い

「コナン君……」

「お前が……どうした?」

哀の病室の前で佇んでいたコナンは突然の訪問者に驚いていた。

「博士から聞いたんです……あの、灰原さんは……?」

「あいつ、酷く落ち込んでるんだ……だから、今はそつとじつおいてやつてくれないか?/?」

病室に田をやりながら、二人に話すコナンはなんとなく、悲しい田をしていた。

それに気づいた光彦はコナンの顔を覗きながら言った。

「灰原さん、何かあつたんですか?/?」

「……実はな……」

その話をうけた時、コナンを呼ぶ声がして振り向いた。

「蘭ねーちゃん……」

「哀ちゃん、どうしたの?/?」

蘭は病室に田をやりながら、コナンに尋ねた。

蘭の問いに頭にびりびりと俯いて、黙ってしまったコナンを見て何かあつたと察した蘭は、にっこり微笑みながら、コナンに手を差し伸べた。

「コナン君、帰る？ 病室に……」

そう言つた蘭の言葉に、近くで聞いていた三人は驚きながら、聞いた。

「病室つて？？」

「誰のですか？？」

尋ねてくる三人に、コナンは勢いよく振り向き。蘭も三人の顔を見ると少し微笑んで言つた。

「皆も来て……」

そして、コナンも蘭の発言に焦り。三人に知られたくない一心で蘭に助けを求めるかの様なか細い声で名前を呼んだ。

「蘭ねえーちゃん……」

「隠しても、いずれバレちゃうんだから……言わなきゃダメよ……皆にも聞いてもらおう？」

そう言つた蘭の手を握り、仕方なく病室に戻る事にした。その後を黙つてついて行く歩美、元太、光彦は何が起こっているのか、不思議でたまらない心境だった。

病室に戻ったコナンを待ち構えていた小五郎は蘭に手を引かれ戻ってきたコナンをニヤリと見て詰め寄ると言つた。

「よし、コナン！先生と行くぞーー！」

「まだ、大丈夫だよっ」

小五郎の言葉に、いつものように手術の事を言われるかと思つていたコナンはそう叫んで逃げ出した…。

そんなコナンをあつさつと捕まえると、小五郎はコナンを抱きあげると診察室へ向かった…。

「やだよ、おじさん！降ろしてよーー！」

「黙つて来んだよーー！」

診察室の先生の所へ行くのが嫌で、行きたくないの一点張りの様子のコナンは小五郎に向かつて叫んでいた。

そんなコナンの反抗も虚しく、診察室の扉が開かれた…。

「やあ、コナン君…今度こそ、聞かせてくれるかい？？君の返事…

……

コナンに問いかける坂井医師の後ろから心配な面持ちで顔を出した、歩美、元太、光彦の存在を確認すると…。ついりしながら、コナンの頭に手を当てて言った。

「そいつが、今まで手術を拒んでいたのは…友達に知られたくない

たからかな？？「コナン君？」

「先生！！僕、先生にお願いしたい事があるんだ！！」

コナンに向けて微笑む坂井医師とは反対にコナンの瞳は真っすぐと、そして真剣に坂井医師の方へ向けられていた…。

「先生、お願い！！僕の最後の約束を聞いてほしんだ！！」

これ以上にない真剣さに…坂井医師は、その瞳を暫く黙つて見つめていた…。

▼01・9 言わなきゃいけない、最後のお願い（後書き）

今日は凄い寒くなりましたね
まだまだ、正月気分が抜けず寒さを雑煮でしのいでいる・今日この頃です。

休みと言つ事も、あり…この時間に投稿ができるといふ事もあり…
もう一話、夜中あたりに投稿したいなあと想いつつ、自分の行動を
制御してしまいます。

では、次回ヒント
本気だよ

次回もまたお楽しみに

▼ 01・10 ノナンの強い意思と想い

「約束つて、やつきの事かい？」

「うん……」

ノナンの真っ直ぐな瞳を見つめ、困った様な表情を浮かべる坂井医師は…ノナンから田線を返らして言つた。

「さつきも言つたけど、それは君が考える事じゃ……」

「分かってるよ……でも、どうしても…守りたいんだ……！あいつを助けたいんだよ……」

その会話に、何の話をしているのか分からぬ小五郎達は先生に問い合わせた…。

「先生…あの、こつたい……」

「言つても、いいよ……」

その言葉に、暗い表情を浮かべると…ノナンを見つめた…。

ノナンの言葉に、更に不安な表情を浮かべる坂井医師は小五郎達の方へ向き直ると、ノナンに言われた約束を話した…。

「…………といつ訳なんです…友達の事を思つ気持ちは分かりますが…とてもじやないけど、承諾しきれません…」

先生からの話を聞き終わると…さすがに、驚きを隠せない様子でその場にいた全員が「コナンを見つめていた…。

「「コナン君…お願いだから、お友達の事は先生に任せて…君は手術をしてくれないかな…ドナーだつて現れる可能性あるんだしね！！」「現れなかつたら？現れなかつたら、あいつは死んじゃうんだよ…！だつたら…」

「「コナン君！！」

先生の説得も虚しく、コナンは頑として意見を変える様子もなかつた。

それよりも、哀を守る事ばかりを考え…元太達や蘭の説得さえも決して首を縦に振ることはなかつた…。

「お父さん…」

そして蘭が小五郎に助けを求める…小五郎は「コナンの胸元を掴み睨みつけながら言つた…。

「お前…！…本気なのか…！」

「本気だよ…！」

「もう一度、考え方…後悔しても知らねーぞ…！」

「後悔なんてしないよ…！僕が決めたんだから……！」

「やっぱりやめるつつても、もう手遅れになつちまうんだぞ…！」

「それでもいいのか…」

「そんな事言わないよ…！」

睨みつける小五郎の言葉に、頑なに意見を曲げないコナンを見て、小五郎の「コナンの胸元を掴む手之力が入る…。

「本気…なんだな！」

「うん……」

小五郎のその言葉に勢いよく頷くコナンを見て、瞳を濡らすと…コナンの胸元を掴んでいた手を離し…コナンに背を向けた…。

「勝手にしていい…」

そんな小五郎を見た蘭はコナンの肩を掴み…自分の額をコナンの額に当てながら、潤んだ瞳を輝かせてもう一度ゆっくり話した…。

「ねえ、コナン君…もう一度、もう一度よく考え直して…貴方がいなくなつたら、悲しむ人だつているのよ…」

「僕、もう決めたんだ！！あいつを守れるの、僕しかいないから…最後まで、あいつを励まさなきやいけないから…それに今、あいつすつじく落ち込んでるから…だから…」「めんね、蘭ねーちゃん…」

…

「コナンの言葉一つ一つに重みを感じて…それ以上は反対できなかつた…」コナンの言葉を聞きながら、肩を震わせ…閉じた瞳から涙がこぼれ出してこた…。

「ビハンド…ビハンドコナン君は…」

そうこいながら、コナンの小さな身体を抱きしめた…。

「だつたら、精一杯…琅ちゃんの事、守つてあげるのよ…？」

「うん…分かった…！…ありがと…、蘭ねーちゃん…」「めんね…」

もつ、これ以上コナンにいぐり説得したとしても…納得なんてしてはくれない…。

誰が何を言つても、決してその決意を捻じ曲げる事なんてできない

…。
…。

そう感じた一回は、コナンの意思を悲しくも、受け入れる事にした
…。

この先、何があろうとも…コナンはこの時した決意を途中でやめる事なんてしないだろ…。

この先、なにがあろうとも…絶対に…。

▼ 01 · 10 ハナノの強い意思と想い（後書き）

こんばんわ　ｗｗ

本日一度田の投稿になります。

休みだと、時間があつていいですね

その休みも、もうそろそろ終わるのですが…。

といひにいひ、明かさない様な
感じには書いていますが、多分
そろそろわかつちやいます。

12話は特に　ｗｗｗ

では、いつもの行きます（笑）

次回のヒント

すまない

では、また明日
お楽しみに

▼01・11 ノナンの覚悟に流れれる涙

その様子を見ていた坂井医師は、ノナンの方に向きを変えると真っ直ぐと顔を覗むけで言った…。

「ノナン君…私は医師として…君のいう事を受け入れる事は出来ない…出来ないけど…私はもう、意志を変えるつもりなんてないんだろ？？」

「うん…！」

再確認する坂井医師の目をじっと見て、真剣な表情のまま返事をするノナン…。

ノナンの目の目が、とても力強く…言葉を詰まらせられる…そんなノナンを見て、坂井医師はゆっくりと言い聞かせる様に話だした…。

「ノナン君…今を逃せば、君の命を救う事が出来なくなる…この先、病状が悪化すれば、いくら手術をした所で、君を助けられないんだよ？分かってる？？」

「うん…！」

そんな事を言つても尚、意志を曲げようとしたしないノナンを見ると…坂井医師はもう…「ノナンを止める言葉を失っていた…。

「今は元気だけ…これから、少しづつ病状が進行する…今よりもずっと辛い思いをする事になるんだよ？覚悟はできてる？？」

「うん…！大丈夫だよ？その位、分かってるから…」

もつ、何を言つてもダメなコナンに坂井医師は諦め、それならばと
…「コナンの顔を覗き込むと、真剣な眼差しで言つた…。

「だったら、コナン君…これだけは守つてくれないか??絶対に
無理しないつて…少しでも、体調がおかしいと思つたら、先生に言
つてほしんだ…」

コナンの肩に手を置いて頼む坂井医師の言葉に…少し俯くと、静か
に言つた…。

「ダメだよ、ダメだよ先生…少し位無理しなかつたら、あいつに…
灰原にバレちゃうじゃない…！」

「えつ？じゃ…灰原さんには…」

「うん！灰原には…僕の病気の事も全部…黙つてほしんだ…！あ
いつに言つたら絶対反対されるし…それに、いつか言えたら言おつ
つて思つてゐからや…」

そういう終わると、コナンは坂井医師に笑顔を見せた…。

そんなコナンの浮かべた笑顔を前にした坂井医師は耐えきれず、瞳
から涙が溢れ出した…。

コナンは驚き、坂井医師の顔を覗き込んだ…それを隠すように、自
分の手で顔を覆い…涙を拭うと言つた…。

「すまない…」

初めて見る坂井医師の涙を目にすると…コナンは視線を落とした…。

コナンは分かつていた…自分の行動が周りにいる人達を悲しませ

てるつて事を……だけど、どうしても助けたい……坂井医師を泣かせる事になつても、その意志は変える事なんて出来なかつた……。

「「」あんね、先生……僕、もう一度あいつの所へ行つてくるよ……」

もうこれ以上、悲しい顔を見たくなかつたコナンは足早に診察室を飛び出した。

▼01・11 ノナンの覚悟に流れる涙（後書き）

こんばんわ

昨日の投稿で、結構分かってくれた見たいだったので、よかつたです。

次回は少年探偵団にコナンが言い聞かす事になるので、そのセリフから本当に明らかになるといったのですが…もう心配ないようです。実は、短編で書いた時、読者にも最後の最後まで内緒にしておくストーリーにしてあつたのですが、連載にすると一気に読むという事が難しいので、明かしました。

書いていると、読む側に回る事がすぐ難しいので、バツさなきやよかつたのについて思つてしまつたら、ごめんなさいww

でも、これから楽しんでもらえたら、うれしいです。

次回ヒント
笑うコナン

それでは、また明日会いましょう(=、ヽ、人ヽ、ヽ=)

笑つていてくれよ……（前書き）

今回はいつもより、短いです
一回に分けて時間をあけての投稿しようと思ったのですが、無理で
した

その代わり、明日は長いです。〃〃

笑つていってくれよ……

「コナン君ーー！」

哀の病室へ向かおうと、足を進めていたコナンに歩美は声をかけた……。

コナンは振り向くと、淋しそうな表情をしたまま、田線を三人の方に向けるて言った……。

「『じめんな』隠していた拳句、『こんな事勝手に決めちまつて…』

「コナン君…どうしても…どうしても…駄目なの？もう、決めちゃつたの？？」

謝るコナンに対し、歩美は泣きじゃくりながらコナンに訴えるかのような声で聞いた……。

「あいつは…心臓移植しなきや死んじまうんだ…だから、もうこれしかないと決めたんだよ…勝手かもしれないけど、あいつを守るのは、俺しかいないからわ……」

コナンは淋しそうな表情を浮かべながら、三の方に身体を向けて言つた……。

「だから、『じめんな』……」

「コナン君……」

そんなコナンの言葉を聞いた三人は涙を堪える事が出来なかつた……。

「泣くなよな……俺はさ、俺の前ではさ、最期まで笑つててほしんだ

…」

「コナン……」

「頼むよ……俺の最期のお願い聞いてくれないか???」

そんなお願いをするコナンをみると、三人は何も言えず…ただ、涙を流すだけだった…それを見たコナンは微笑みながら明るく言った。

…。

「ほら、行こうぜ? あいつ、今一人なんだからやれ…」

「うん……」

やつとの想いで返事をする三人は顔を見合せると…コナンに精一杯の笑顔を見せた…そして四人で哀のいる病室へ向かった…。

笑つていってくれよ……（後書き）

今晚わWW

今日は仕事始めでしたWW始まりだと言つのに、仕事中居眠り状態でした￥(／＼＼＼＼)￥

明日からは氣をつけなきやです(^○^)/

今回は、探偵団との会話でしたWW

コナンの決意に何も言えない探偵団達は、なんだか、さみしそうです(T__T)＼(^ - ^)

書いてる自分が言つのも、なんですがWW

次回ヒントは

諦めるな

です 今日から仕事初めの人も、明日からの人も、まだ、まだおやすみが続く人も、残りの正月を楽しんでください(^○^)/

明日お仕事の人は、お仕事頑張りましょう
また、明日の投稿お楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4767z/>

小さな運命共同体

2012年1月5日19時50分発行